Architectural Institute of Japan

【カテゴリーⅠ】

日本建築学会計画系論文集　第598号，117-122，2005年12月
J. Archit. Plann., AIJ, No. 598, 117-122, Dec., 2005

ルアンプラバンの歴史的町並み保存に関する行政の取り組みと住民意識

CITIZEN CONSCIOUSNESS AND CONSERVATION POLICY FOR THE HISTORICAL PRESERVATION AREA OF LUANGPRABANG, Lao P.D.R

シッティワン ソムチット*1，河本順子*2，阿部浩和*3
Somchith SITTHIVAN, Junko KOMOTO and Hirokazu ABE

In previous paper, the authors have examined about "Actual Situation of PSMV and Problem in Historic Conservation area in Luang Prabang Province, LAO P.D.R ". It reported that: Most of illegal buildings have non-permission, in this case had many of them violation on the material of wall, building form. And it was pending subject to survey the consciousness of citizen for preservation. In this paper aims to examine the Citizen's consciousness and Conservation policy, to find some of key for improving the Preservation plans of historic town of Luang Prabang through Citizen's Participation Approaching. The target subjects and area are the citizens, teachers, undergraduate students, administrators of government, Organization or the authorities concerned in Luang Prabang and Vientiane Lao,P.D.R. Some of results are as follows:

1) Citizen think that Luang Prabang is developing to become more beautiful, increasing of visitors after it was registered into the world heritage. But there are many of citizens think the regulation of preservation is being a problem to their housing construction.

2) By sharing the housing images has been performed that the houses which citizen regarded as seemingly LuangPrabang style should be preserved, but that is different type of houses so citizen prefers to live.

Keywords *: Luang Prabang Lao.P.D.R, Historical Preservation Area,Citizen Consciousness,PSMV*
ラオス・ルアンプラバン、歴史的町並み保存、住民意識、PSMV

1．序

ルアンプラバンはラオス人民民主共和国の古都で1995年にユネスコの世界遺産に登録されている。ラオス政府はユネスコの協力を得て、建築物や景観、自然環境の保存に関する規則ＰＳＭＶ(注1)を設け、その保全に取り組んできた(文1)。しかしその後の調査において、現状ではまだこのような規則が十分に守られていないという報告(文2)があり、今後の保存政策が課題となっている。

筆者らは前報(文3,4,5)において歴史的遺産保存地区における当該ＰＳＭＶの現状と問題点を把握するために違反建築の調査、許可申請内容の分析、違反者へのヒアリングなどを行った結果、①違反建物の指摘件数はZPP-Ua地区とZPP-Ub地区がその大半を占めており、その建築用途は大半が住宅用途であること、②違反建築物における許可申請の状況は全体の約86％が申請を行っておらず、その割合は2002年に対して2003年でやや増加していること、③設計や施工を行うのが建築の専門家ではない住民自身であるために、政府が策定したＰＳＭＶの規則が十分に理解されていない可能性があることなどが明らかとなった。

ただ今後の効果的な保全活動を考える上で様々な課題が残されている。その中でも実際に保全活動をになう住民側の意識が重要であり、ＰＳＭＶの規制内容の理解や歴史的町並み保存の意義、積極的な住民参加の意志などを把握する必要がある。

また、行政側に関しても申請の審査と許可が現在はまだユネスコの主導で行われている状態であり、ラオス政府の歴史的町並み保存政策への取り組みの現状と、行政担当者の認識を把握することが重要である。

これまでラオスにおける住民意識を扱った研究として、河本ら(文6,7)はラオスの中部の農山村住宅を取り上げ、住宅形態と住民意識を調査し住宅建設の費用、便利さ、採光、通気性など住環境に関してはほぼ満足であるのに対して、住宅寸法に関しては不満と感じていること、将来の住居様式は高床式から２階建てに移行していくと考えられることなどを明らかにしている。しかしこれらは歴史的遺産保存地区に関するものではない。

また内海ら(文8)はベトナムのホイアンにおける条例実施前後の状況と住民の町並みへの意識を調査しており、条例に対する住民の反応

*1 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻　博士後期課程・修士　Graduate Student, Architectural Eng., Graduate School of Engineering, Osaka Univ., M. Eng.
*2 ARC代表　工博　ARC Organization, Dr. Eng.
*3 大阪大学サイバーメディアセンター　教授・工博　Prof., Cybermedia Center, Osaka Univ., Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

などを明らかにしている。

本稿ではラオス政府の保存政策に関する取り組みについてルアンプラバンと首都であるヴィエンチャンの行政担当者にヒアリングを行うとともに、ルアンプラバンの住民やヴィエンチャンの学生などに対して歴史的町並み保存に関する意識調査アンケートを行うことで、今後の効果的な保存政策の検討のための手がかりを得ることを目的としている。

2. 方法

2.1 行政担当者へのヒアリング

2.1.1 調査対象

ヒアリング対象はヴィエンチャンとルアンプラバンの建築都市開発部及び情報文化局と国立大学、都市開発調査局保存事務所（以下IRU)、ユネスコ現地事務所である。表1にヒアリングを行った政府の部門と担当者を示す。情報文化局は県全体の文化遺産物・生活文化の保全を行う機関であり、IRUはヴィエンチャン市の歴史的遺産保全地区の調査、規制条例の策定を行う機関である。またラオス国立大学の建築学部は現在ラオスで唯一の建築系の高等教育を行っている機関であり、政府の行政担当者の多くがこの大学の卒業生である。彼らはいずれもラオスの開発、保存政策の第一線で活躍している人々で、現在直面している課題を経験的に把握していると考えられる。

表1. ヒアリング対象

部門	場所	役職	月日
国立大学建築学部	ヴィエンチャン	教頭	2004年11月4日
市都市開発部	ヴィエンチャン	審査担当者	2004年11月23日
都市開発調査局保存事務所(IRU)	ヴィエンチャン	専門技術者	2004年11月5日
県建築都市計画	ルアンプラバン	審査担当者	2004年11月10日
市都市開発部	ルアンプラバン	マネージャ	2004年11月8日
情報文化局	ルアンプラバン	課長	2004年11月18日
ユネスコ現地事務所	ルアンプラバン	所長	2004年11月17日

2.1.2 調査内容

ヒアリングの期間は2004年11月4日から23日で、筆者らが直接面談して回答を得る。政府の各部門へのヒアリング内容は各部門の歴史的町並み保存に対する業務内容及びこれまでに取り組んだプロジェクト、広報の内容、それに関する問題点・課題、ルアンプラバンのＰＳＭＶに対する意見などである。

表2. 対象被験者

被験者	記号	合計	月日
ルアンプラバンの一般の住民	LP-C	38	2004年11月12日
ルアンプラバンの小学校 教師	LP-T1	18	2004年11月10日
ルアンプラバンの中・高学校教師	LP-T2	28	2004年11月11日
スパーヌヴォン大学の学生	LP-G	53	2004年11月8日
ラオス国立大学・建築学科の学生(構造コース)	VT-E	30	2004年11月5日
ラオス国立大学・建築学科の学生(建築コース)	VT-A	30	2004年11月4日
合計		197	

2.2 住民へのアンケート調査

2.2.1 調査対象

表2に今回のアンケート調査の被験者を示す。被験者のグループは6つでヴィエンチャンにおいてはラオス国立大学建築学科の学生60名（建築コース30名、構造コース30名)、ルアンプラバンにおいてはスパーヌヴォン大学の学生53名、ルアンプラバンの小学校の教師18名、ルアンプラバンの中・高学校の教師28名、ルアンプラバンの一般住民38名、合計197名である。

2.2.2 調査内容

調査期間は2004年11月4日～12日で、アンケート調査票を配布して回答を求めた。図1、2にアンケート調査票の一例を示す。質問内容は2つの部分から構成され、Ⅰ部（図1）は被験者の個人情報及び建築行為の主体に関する設問とルアンプラバンの歴史的町並み保存に関する意識調査である。Ⅱ部（図2）は写真を用いたアンケートでルアンプラバンのイメージを確認するものと被験者が希望する町並みや住宅を確認するものから構成されている。写真の選択に関してはルアンプラバンの保存地区内における特徴的な景観や町並み及び伝統的住宅から最近の住宅までの代表的なものを選定した。

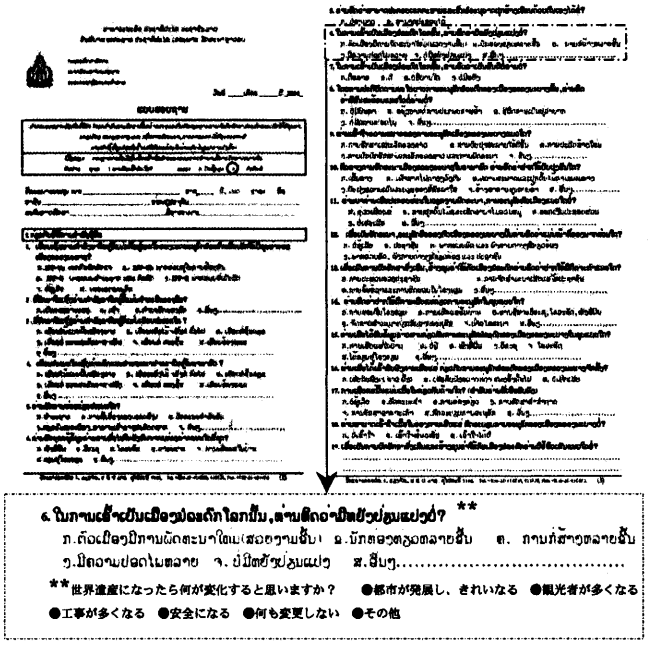


図1. アンケートの一例（Ⅰ部）

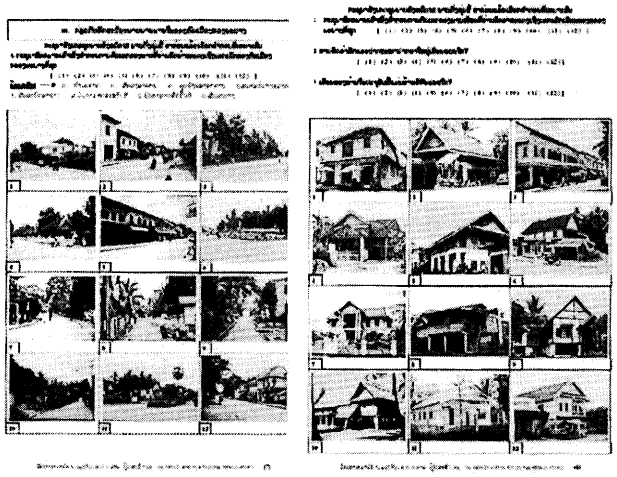


図2. アンケートの一例（Ⅱ部）

3. 結果と考察

3.1 行政担当者へのヒアリング結果

表3, 4に政府の各部門へのヒアリング結果を示す。これを見ると

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

ラオスの歴史的町並み保存とルアンプラバンのＰＳＭＶに関して、住民側の問題点は、彼らが規制通りすることに慣れておらず、建築図面を重要と思っている住民は少ないこと、また住民は歴史的町並み保存の目的を理解しておらず、保存の活動に積極的でないこと、さらにＰＳＭＶが住民の生活や経済の現状に適合していないこと(注2)などが指摘されている。

また行政能力上の問題としてＰＳＭＶを適切に管理するための体制がまだ十分に確立されておらず、それを管理するスタッフを養成できていないこと、またそのスタッフはラオス国立大学の出身者が多いが、ラオス国立大学では現在も伝統的建築物の保存に関する授業があまり行われていないこと、さらに行政のスタッフの一部でもＰＳＭＶを守っていないという事実があることなどが指摘されている。 これらのコメントはラオスの保存政策を実施している行政側の認識である。

表 3. 政府の各部門へのヒアリング結果（ヴィエンチャン）

部門	国立大学建築学部	市都市開発部	開発調査局保存事務所
場所	ヴィエンチャン	ヴィエンチャン	ヴィエンチャン
役職	教頭	審査担当者	専門技術者
日時	2004年11月4日	2004年11月23日	2004年11月5日
歴史的遺産保存に関して行っている業務内容	現在、伝統的建築物に関する科目は5年生で授業があるが、保存に関する授業は行っていない	ヴィエンチャン中心市街地の都市計画やインフラ整備,建築許可申請 の指導などを行っている	ヴィエンチャン市における歴史的遺産保全地区の調査、規制条例の策定
歴史的遺産保存に関する今までのプロジェクト	現在、大学と地域が共同で行う保存プロジェクトはない	①.中心市街地の整備計画、②インフラ整備(道路33.6KM、下水道13KM、公園整備など③行政スタッフの教育	1 ナッサイ村、ドヌン村の伝統的住宅の保全プロジェクト 2.規制ガイドラインの策定
歴史的遺産保存に関する広報教育	タイや日本から保存に関するセミナーは年3－4回くらい実施している。また学生の保存に関するは卒業研究は年数件ある	プロジェクトの実施段階での計画説明など	文化、観光、保存に関する広報をローカルの行政スタッフと3村長を対象に年二回程度実施している
上記の問題点・課題	ラスス人の建築家(専門家)は保存のことにあまり詳しくない		現地アンケート調査の実績が乏しく、調査票作成について困っている
PSMVに対する意見	PSMVの規制内容は厳しいというのではなく、住民の生活に合っていないと考える。		PSMVの保存規制条例は厳しいと思う。ヴィエンチャンの保存規制条例はまだできていない
文化保存、生活保存について	住民の生活文化は守りにくい		住民の生活文化は守りにくい
他の保存すべき場所	ラオス北部の少数民族の村やワットチャン地区、タケイ地区		ラオス北部の少数民族の村

表 4. 政府の各部門へのヒアリング結果（ルアンプラバン）

部門	県建築都市計画	市都市開発部	情報文化局	ユネスコ事務所
場所	ルアンプラバン	ルアンプラバン	ルアンプラバン	ルアンプラバン
役職	審査担当者	マネージャ	課長	所長
日時	2004年11月10日	2004年11月8日	2004年11月18日	2004年11月17日
歴史的遺産保存に関して行っている業務内容	ルアンプラバン市保存地区以外の建築許可申請と県全体都市計画を管理している	ルアンプラバン市における保存地区とその周辺の都市計画やインフラ整備、建築許可申請 などを管理している	県全体の文化遺産物・生活文化(お祭り・伝統音楽・生活)、美術などの保存を担当している	PSMVの指導、住民への情報提供、保存資金の調達,
歴史的遺産保存に関する今までのプロジェクト	①フランスの専門家との共同によるルアンプラバン郊外の新地区計画 ②チョンペチ市及びプークン、シェングンなどの都市計画	1 インフラ整備, 2 マーケットの建設, 3 ゴミ処理	再生ラオス伝統的美術研修プロジェクト。寺院建築改修。村文化の奨励、子供文化センター、住民の移動図書館	①. 保存地区内の道路、路地の整備 ②寺院建築物の改修すること、③ラオス伝統的木材住宅の保存改修、④池の保全 、⑤PSMVの本、CDを作成 ⑥ナイトマーケットの企画、⑦広報
歴史的遺産保存に関する広報教育	ルアンプラバン市(58村)の村長を対象に都市計画法及び建築基準規制を年1回講義している	プロジェクトの実施段階での計画説明など、建築申請及び違反建築の指導指摘	学校で年1－2回くらいラオス文化の講義。内容は伝統的文化の重要性。年3－4回世界遺産新聞を作成	①村や学校で年1回の広報活動 ②参加者:行政のスタッフ、村長、住民 ③内容は世界遺産の説明と遺産保存の重要性
上記の問題点・課題	住民が建築規制に違反することは多く、建築図面は重要と思っている住民は少ないこと	ラオス住民は規制通りすることが慣れていないこと。住民は保存ポリシーの目的が分かっていない	保存の活動は住民があまり参加しない	①PSMVは高い経済レベルで設計されているが、住民経済は低いレベルであること。②行政のスタッフの一部はPSMVを守っていない
PSMVに対する意見	PSMVは厳しく、市民の経済事情に適合していない。また伝統的な材料の不足と品質の低下	PSMVは厳しくない。ただPSMVを適切に管理するには行政側の体制がまだ確立されていない	PSMVの内容は住民には理解できない	PSMVは厳しくないが、その中に現実的でないいくつかの部分がある
文化保存、生活保存について	住民の生活文化は守らない、観光者多くなって、外国文化の影響を受け取る	住民の生活文化は守りにくい。また新しい情報が多く入ってくるために、住民の生活に変化が多く見られる	住民の生活文化は守りにくい	住民の生活文化が守りにくい
他の保存すべき場所	ヴィエンジャン洞窟、自然、パータンなど	パークウー洞窟、や自然・森、など	パークウー洞窟、や自然・森、など	①ホーパン県の立石、②森、自然

3.2 住民へのアンケート結果

3.2.1 被験者の属性

表 5 に今回の調査対象の属性を示す。これによると男性は 105 名女性は 92 名である。年齢構成はヴィエンチャンは大学生であるため 20 歳前後であり、ルアンプラバンは大学生以外に社会人も含まれているため 10 歳～49 歳に分布している。

表 5 被験者の属性

(人数)

		ヴィエンチャン			ルアンプラバン				
		VT-A	VT-E	計	LP-G	LP-C	LP-T1	LP-T2	計
性別	男	20	21	41	27	21	1	15	64
	女	10	9	19	26	17	17	13	73
年齢	10-19	12	8	20	50	7	0	0	57
	20-29	18	22	40	3	6	4	5	18
	30-39	0	0	0	0	12	6	13	31
	40-49	0	0	0	0	11	8	9	28
	50-59	0	0	0	0	2	0	1	3
	60-	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		30	30	60	53	38	18	28	137

3.2.2 歴史的町並み保存に関する住民意識

表 6 に歴史的町並み保存に関する質問結果を示す。

表 6 歴史的町並み保存に関する質問

(人数)

		合計	LP-C	LP-T1	LP-T2	LP-G	VT-E	VT-A
ルアンプラバーンは世界遺産に登録されたことを知っていますか？	知らない	5	1	0	0	2	0	2
	知ってる	192	37	18	28	51	30	28
世界遺産に登録されたらあなたの住宅の新築・改築拡張等は勝手に工事することはできなくなること、保存計画の通りに申請する必要があります。これらのことについてどう思いますか？	良かったと思う	37	4	2	4	10	8	9
	問題ないと思う	47	5	9	8	10	8	7
	分からない	17	2	0	0	13	1	1
	問題になると思う	93	27	7	16	18	12	13
	良くないと思う	3	0	0	0	2	1	0
あなたの自身は保存のことに興味持っていますか？	全くない	0	0	0	0	0	0	0
	あまりない	2	2	0	0	0	0	0
	やや興味ある	22	7	5	3	1	3	3
	興味ある	92	16	9	17	25	8	17
	とても興味ある	80	13	4	8	27	18	10
	空白	1	0	0	0	0	1	0
世界遺産になったら何が変化すると思いますか？	都市が発展し、きれいなる	73	16	4	18	24	3	8
	観光者が多くなる	114	20	11	10	27	25	21
	工事が多くなる	4	0	3	0	0	0	1
	安全になる	3	1	0	0	1	1	0
	何も変更しない	2	1	0	0	0	1	0
	その他	1	0	0	0	1	0	0
世界遺産になったことはあなたに対してよっかったですか？	とても良い	93	17	10	7	31	18	10
	良い	83	12	6	18	20	10	17
	あまり良くない	11	6	2	0	0	2	1
	何もない	9	3	0	2	2	0	2
	空白	1	0	0	1	0	0	0
保存計画の通りにするとあなたに対しては影響がありますか？	問題ない	166	24	15	26	48	28	25
	商売がむすがしい	11	4	1	1	1	1	3
	生活が不便	9	6	1	1	0	1	0
	治安が悪くなる	10	4	1	0	3	0	2
	その他	1	0	0	0	1	0	0
ルアンプラバーンの保存の意味についてはどのように理解してますか？	ラオスの文化を守る	64	16	4	9	8	17	10
	発展すること	6	4	0	0	1	1	0
	新しくする	0	0	0	0	0	0	0
	ラオスの文化を守り・発展すること	123	18	13	18	43	12	19
	その他	1	0	0	0	0	0	1
	空白	3	0	1	1	1	0	0
未来のルアンプラバーンの発展方向性についてはどのように思いますか？	道路整備	40	6	5	6	11	9	3
	電線を地下にする	25	8	2	2	0	6	7
	並木道を作る	75	16	7	11	24	9	8
	町並みの整備統一	32	6	4	6	5	2	9
	大型店舗を作る	23	2	0	3	13	2	3
	その他	1	0	0	0	0	1	0
	空白	1	0	0	0	0	1	0

これによると大半の被験者はルアンプラバンが世界遺産に登録さ

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

れたことを知っており、それによって観光客が多くなり、都市が発展し、きれいになると考えている。また、ルアンプラバンの保存の意味についてもラオスの発展と固有の文化を守るためと言う回答が多いことから行政の広報が住民に行き渡っていると考えられる。一方、保存政策によって住民自身の住宅工事が規制されることに対しては、問題であると思う人が多く見られた。この結果はルアンプラバン、ヴィエンチャンの各被験者に共通しており、日本での既往研究(注3)とも一致する。

表7に教育・広報に関する質問結果を示す。これによると65%は歴史的町並み保存に関する教育を受けており、そのうちルアンプラバンの住民のほうがヴィエンチャンよりも多いことが分かる。教育を受けた場所はルアンプランの住民や教師は村長からが多く、学生は学校でと回答している。ルアンプラバンの住民の教育回数は1回〜2回が最も多い。また、教育内容に関しては全般的に文化に関するものが多いが、ルアンプラバンの住民では保存規制に関するものも多い。また住民がどんな方法で教えてほしいかについてラジオ・テレビ・新聞などが最も多く、次にゼミナール（集会）、学校と回答している。

表7　教育・広報に関する質問

(人数)

		合計	LP-C	LP-T1	LP-T2	LP-G	VT-E	VT-A
あなたはどんな方法で保存に関する情報を知りましたか？	村で	35	15	8	6	4	2	0
	なし	10	3	0	2	0	2	3
	新聞	27	7	1	2	7	8	2
	ラジオ	34	7	1	1	18	1	6
	テレビ	53	2	5	13	8	14	11
	学校で	29	4	3	2	15	1	4
	その他	6	0	0	1	0	1	4
	空白	3	0	0	1	1	1	0
保存に関する教育を受けたことありますか？	ある	127	23	17	20	38	17	12
	ない	68	15	1	8	14	12	18
	空白	2	0	0	0	1	1	0
保存に関する教育をどこで受けましたか？	学校で	51	4	3	5	28	8	3
	政府関係者から知った	39	9	6	5	7	4	8
	村長から	33	10	8	9	3	3	0
	その他	4	0	0	1	0	2	1
	空白（受けない=68人）	2	0	0	0	1	1	0
ルアンプラバーンの保存教育に関してあなたは何回参加しましたか？	1回〜2回	73	16	11	14	13	12	7
	2回以上	45	7	6	6	18	5	3
	空白（受けない=68人）	11	0	0	0	8	1	2
どんな内容でしたか？	分からない	19	2	0	4	10	1	2
	文化	40	5	10	5	9	6	5
	観光	15	0	2	1	3	7	2
	自然保存	14	2	4	2	6	0	0
	伝統的建物保存	16	2	1	3	6	1	3
	保存規制	23	12	0	5	4	2	0
	空白（受けない=68人）	2	0	0	0	1	1	0
ルアンプラバーンのPSMV保存規制の内容を理解できますか？	理解できない	15	2	0	1	4	3	5
	少し理解できる	74	11	8	13	24	11	7
	よく理解できる	38	10	9	6	10	3	0
	空白（受けない=68人）	2	0	0	0	1	1	0
保存のことはどんな方法で教えてほしいですか？	学校	34	10	6	2	7	4	5
	村で	25	7	1	5	4	3	5
	ラジオ・テレビ・新聞	83	10	8	13	29	10	13
	ワークショップ/セミナール（集会）	38	9	3	5	8	8	5
	保存案内看板	14	2	0	2	5	3	2
	その他	1	0	0	0	0	1	0
	空白	2	0	0	1	0	1	0

表8　住民参加に関する質問

(人数)

		合計	LP-C	LP-T1	LP-T2	LP-G	VT-E	VT-A
今まで環境美化、保存などの活動に参加したことがありますか？	教育	12	0	0	3	0	6	3
	清掃・植樹	142	27	17	21	45	14	18
	寄附	19	5	1	3	3	5	2
	なし	21	6	0	1	4	3	7
	その他	1	0	0	0	0	1	0
	空白	2	0	0	0	1	1	0
景観保存はだれの仕事だと思いますか？	わからない	3	0	1	0	1	0	1
	住民	22	3	1	6	2	7	3
	政府とユネスコ	9	6	1	0	1	0	1
	政府とユネスコと住民	162	29	15	22	49	22	25
	空白	1	0	0	0	0	1	0
遺産保存のためにあなたはどんな活動があってほしいと思いますか？	住民活動	25	4	0	2	11	4	4
	集会	75	21	6	11	11	16	10
	授業	91	12	12	15	29	8	15
	その他	4	0	0	0	1	2	1
	空白	2	1	0	0	1	0	0

表8に住民参加に関する質問結果を示す。これによると「環境美化、保存などの活動に参加したことがありますか」と言う質問に対して90%はあると回答しており、ルアンプラバンの景観保存と都市開発についても政府・ユネスコだけの仕事ではなく、住民も参加する必要があると認識していることが分かる。この結果はルアンプラバン、ヴィエンチャンの各被験者に共通しており、ラオスの住民が協働活動に前向きであることを示唆している。また、このことは行政担当者の認識と異なっている。

3.2.3　居住者イメージ調査

アンケートの後半の設問はルアンプラバン市内の写真12枚から最も質問内容にふさわしいと思う一枚を選択させ、その理由をマークさせることで実施したものである。

①景観について

ルアンプラバンの景観を示す写真１２枚に対して「ルアンプラバンらしい景観はどれか」と言う質問とその理由を尋ね、その結果を表9に示す。ルアンプラバンの景観に関して、全体では5番（王宮）が最も多く、次に3番（プーシー山）となっているが、ヴィエンチャンの被験者では3番が少なくなっている。このことはその選択理由からルアンプラバンの住民にとってはプーシー山がその象徴となっている一方、ヴィエンチャンの学生にとってはそれが意識されていないことがわかる。

②町並みについて

ルアンプラバンの町並みを示す写真１２枚に対して「ルアンプラバンらしい町並みはどれか」と言う質問とその理由を尋ね、その結果を表10に示す。ルアンプラバンの町並み（表10）に関して、ルアンプラバンの住民では4番（シェントン寺院近くの町並み）が最も多く、次いで3番、11番（ヴィエズン寺院前の町並み）、5番（プーシー山前のメインストリート）の順で、ヴィエンチャンの学生とルアンプラバンの住民では大きい差は見られない。その選択理由を見ると建物、静寂となっており、ルアンプラバンの独自性を示す手がかりが伺える。

③住宅について

次にルアンプラバンにある住宅の写真１２枚に関して「ルアンプラバンらしい住宅」「自分が住んでみたい住宅」「現在自分が住んでいる住宅に似ているもの」を選択させ、その結果を表11に示す。

これによると「ルアンプラバンらしい住宅」でもっとも多いのは2番、4番で、ヴィエンチャンの学生でもほぼ2番、4番が多い。2番はユネスコが改修した高床式の伝統的住宅であり、4番はトンチャルン村の住宅で、この建築物の様式はフランス植民地時代に多く見られるものである。これらのことから保存すべき住宅イメージの共有はほぼできていると考えられる。次に、「住んで見たい住宅」としては7番の写真が最も多く、ヴィチャンの学生では9番が最も多い。前者は近年多く見られる輸入材料を用いた洋風建築であり、伝統的な住宅ではないが、多くのラオス人に好まれていることがわかる。後者はラオスの植民地時代に建てられた伝統的な高床式の住宅で、建築学校の学生にとってはラオスの伝統様式に対する理解が示されていると考えられる。以上のことから、少なくとも「ルアンプラバンらしい住宅」と「住みたい住宅」は異なっていることがわかる。また、「現在住んでいる住宅はどの写真に近いか」と言う質問に対して8番と11番が最も多く、次に多いのは12番、5番の順である。このことはルアンプラバンの住民、ヴィエンチャンの学生に共通している。8番は伝統的でない高床式の住宅、11番は煉瓦造の住宅で一般に庶民が自分で建設する場合が多いものであるが、2番のようなラオスの伝統的な住宅とは異なる。また12番は最近建てられた店舗付住宅で、5番は植民地時代

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

表9　ルアンプラバン内の景観

(%/人数)

ルアンプラバンらしい景観（空白2人）

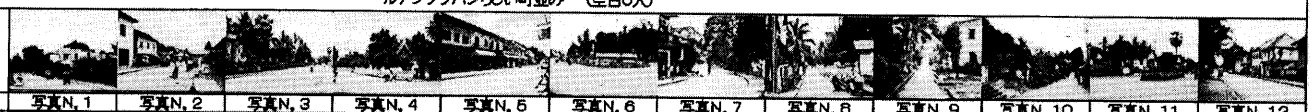
	写真N.1		写真N.2		写真N.3		写真N.4		写真N.5		写真N.6		写真N.7		写真N.8		写真N.9		写真N.10		写真N.11		写真N.12	
合計	1%	2	10%	20	15%	30	3%	5	55%	108	3%	5	2%	4	5%	10	1%	1	1%	1	1%	1	4%	8
LP	1%	2	11%	15	21%	28	2%	3	47%	63	3%	4	2%	3	6%	8	1%	1	1%	1	1%	1	4%	6
VT	0%	0	8%	5	3%	2	3%	2	75%	45	2%	1	2%	1	3%	2	0%	0	0%	0	0%	0	3%	2
自然	100%	2	20%	4	83%	24	20%	1	20%	21	40%	2	0%	0	20%	2	100%	1	100%	1	100%	1	57%	4
建物	0%	0	55%	11	7%	2	40%	2	66%	71	0%	0	50%	2	10%	1	0%	0	0%	0	0%	0	29%	2
樹木	0%	0	10%	2	7%	2	20%	1	10%	11	40%	2	50%	2	60%	6	0%	0	0%	0	0%	0	14%	1
その他	0%	0	15%	3	3%	1	20%	1	4%	4	20%	1	0%	0	10%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0

LP: ルアンプラバン 、 VT:ヴィエンチャン

表10　ルアンプラバン内の町並み

(%/人数)

ルアンプラバンらしい町並み（空白0人）



	写真N.1		写真N.2		写真N.3		写真N.4		写真N.5		写真N.6		写真N.7		写真N.8		写真N.9		写真N.10		写真N.11		写真N.12	
合計	2%	4	0%	0	15%	30	28%	55	12%	24	9%	17	3%	5	5%	9	2%	4	2%	4	17%	34	6%	11
LP	3%	4	0%	0	17%	23	28%	39	10%	14	9%	12	3%	4	5%	7	3%	4	3%	4	12%	17	7%	9
VT	0%	0	0%	0	12%	7	27%	16	17%	10	8%	5	2%	1	3%	2	0%	0	0%	0	28%	17	3%	2
自然	50%	4	0%	0	13%	8	6%	7	0%	0	9%	3	40%	2	11%	1	50%	2	25%	1	0%	0	0%	0
建物	0%	0	0%	0	15%	9	27%	29	47%	22	0%	0	0%	0	78%	7	0%	0	25%	1	82%	28	90%	9
道	0%	0	0%	0	5%	3	4%	4	0%	0	27%	9	20%	1	0%	0	25%	1	25%	1	15%	5	0%	0
静寂	0%	0	0%	0	13%	8	13%	14	2%	1	6%	2	40%	2	11%	1	25%	1	25%	1	3%	1	10%	1
賑わい	0%	0	0%	0	3%	2	0%	0	0%	0	6%	2	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0

LP: ルアンプラバン 、 VT:ヴィエンチャン

表11　ルアンプラバン内の住宅

(%/人数)

	写真N.1		写真N.2		写真N.3		写真N.4		写真N.5		写真N.6		写真N.7		写真N.8		写真N.9		写真N.10		写真N.11		写真N.12	
ルアンプラバンらしい 住宅（空白2人）																								
合計	3%	5	53%	104	4%	8	21%	41	5%	10	1%	1	1%	2	2%	4	6%	12	4%	7	0%	0	1%	1
LP	3%	4	62%	85	1%	1	18%	25	2%	3	0%	0	1%	2	3%	4	5%	7	4%	5	0%	0	1%	1
VT	2%	1	33%	19	12%	7	28%	16	12%	7	2%	1	0%	0	0%	0	9%	5	3%	2	0%	0	0%	0
住んで見たい 住宅（空白0人）																								
合計	1%	2	10%	19	1%	1	3%	6	15%	30	1%	1	39%	77	0%	0	16%	31	0%	0	5%	10	10%	20
LP	1%	1	9%	13	1%	1	1%	2	15%	21	1%	1	45%	61	0%	0	7%	9	0%	0	7%	10	13%	18
VT	2%	1	10%	6	0%	0	7%	4	15%	9	0%	0	27%	16	0%	0	37%	22	0%	0	0%	0	3%	2
現在住んでいる住宅（空白5人）																								
合計	7%	5	15%	10,	16%	11	1%	1	34%	23	26%	18	3%	6	19%	37	3%	6	8%	15	18%	35	13%	25
LP	5%	2	26%	10	13%	5	3%	1	45%	17	37%	14	0%	0	19%	26	2%	3	11%	15	18%	24	13%	17
VT	17%	3	0%	0	33%	6	0%	0	33%	6	22%	4	10%	6	19%	11	5%	3	0%	0	19%	11	14%	8

LP: ルアンプラバン 、 VT:ヴィエンチャン

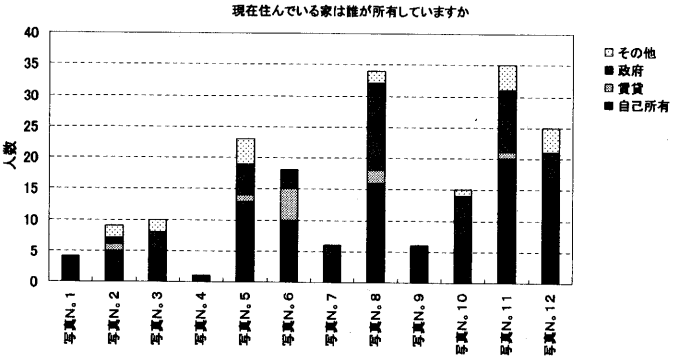


図3　住んでいる家のタイプごとの所有形態

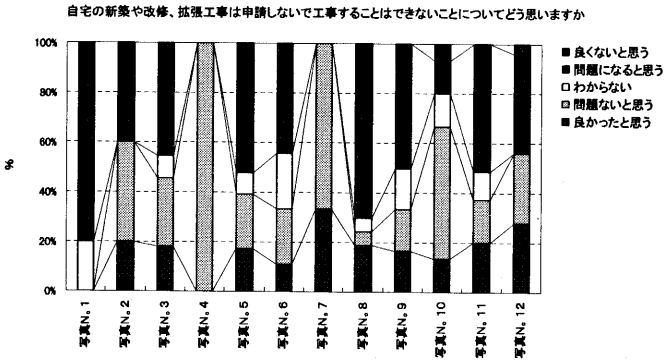


図4　住んでいる家のタイプごとの住宅規制に関する意識

の様式を取り入れたものである。

次に図3に現在住んでいる家のタイプことの所有形態を示す。これを見ると8番と11番の住宅は政府の所有の割合が高く、それ以外では自己所有が多いことが分かる。また、6番の住宅は賃貸の割合も多く、これは伝統的な町並みに面している店舗付住宅で、観光客のための店を経営していると考えられる。次に図4に前節で取りあげた遺産保存に関する質問のうち住宅工事のための規制に関する意識を住んでいる家のタイプごとに示す。これを見ると1番と8番は特に規制に関して問題があると考えており、4番、7番、10番はあまり問題がないと考えている。前者において、8番は伝統的でない高床式の住宅であり、河本らの研究[文6, 7]を見ても一階部分を改修するケースが多く見られ、今後改修工事に関する規制がきびしくなると困ることから「問題である」と回答したと思われる。一方、後者において、10番はラオスの伝統的な高床式住宅であり、すでに保存指定されているか、

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

または一階の部分の階高が低いために改修工事をあきらめていることから問題はないと回答した可能性がある。

4. 結論

本稿では行政政府の保存政策に関する考え方をルアンプラバン及びヴイェンチャンの行政担当者にヒアリングを行うとともに、ルアンプラバンの住民や学生に対して歴史的町並み保存に関する意識調査アンケートを行うことで、以下の結果を得た。

1. 政府の担当者は住民が歴史的町並み保存の目的を理解しておらず、保存の活動に積極的でないと認識しており、ＰＳＭＶが住民の生活や経済の現状に適合していないと認識している。
2. 大半の住民はルアンプラバンが世界遺産に登録されたことを知っており、それによって観光客が多くなり、都市が発展し、きれいになると考えている人が多いが、保存政策によって住民自身の住宅工事が規制されることに対しては問題であると思う人が多く見られた。
3. 環境美化、保存などの活動に約９０％の人は参加したことがあると回答しており、ルアンプラバンの景観保存と都市開発についても政府・ユネスコだけの仕事ではなく、住民も参加する必要があると認識している。
4. 住民がルアンプラバンらしいと思っている住宅の調査から保存すべき住宅イメージの共有はできていることを示唆する結果が得られた。
5. 現在多くの住民が住んでいる住宅は高床式の住宅や煉瓦造の住宅で、「現在住んでいる住宅」と「ルアンプラバンらしい住宅」と「住みたい住宅」は異なっている。
6. 伝統的でない高床式の住宅に住んでいる人の多くは今後改修工事に対する規制がきびしくなることには問題である意識している一方、ラオスの伝統的な高床式住宅に住んでいる人の多くは、
   - すでに保存指定されているか、または一階の部分の階高が低いために改修工事をあきらめているなどから規制がきびしくなることには問題ないと意識している。

以上、行政側と住民側の歴史的町並み保存に関する意識を分析することで、住民側は保存の意義をある程度理解している一方、そのために必要となる建築規制については十分認識できていない可能性がある。また住民は積極的な保存活動に対する参加の意思を持っている一方、行政側にはそれを効果的に生かし得る住民参加型の施策が整備できていないこと、さらにその活動を支えていく経済的な支援システムの構築などが今後必要であると考えられる[注4)]。

謝辞

本稿の調査においてはユネスコ現地遺産事務所の Ouane SIRISACK 氏、Yushi KAWAGUCHI 氏、Savuer 氏、ラオス国立大学の Manorot Phinith 氏, Vira ANOLAC 氏、県文化事務所の Bounkong Koutthao 氏, 市都市開発事務所の Chantharangsy 氏、Daovanh 氏、県都市計画部 Somkith 氏、VT 保存事務所の Vongsack MALIVANH 氏に多大な協力をいただきましたことに謝意を表します。

注

注１）PSMV （Plan de Sauvegarde et de Mise en Valeur/保全及び価値の維持に関する計画規則）は歴史的遺産保存地区(Zone de Protection du Patrimoine)を指定し、その地区内の開発行為や建築行為の規制を定めたものである。PSMV はラオス政府の県建築管理委員会と UNESCO ラオス現地事務所の共同によって策定が進められ、2001 年 4 月に正式な法律として施行された。

注２）1998 年と 2003 年にユネスコが PSMV の規制通りにラオス伝統的住宅を改修した工事金額は約 28000 US＄と 33000 US＄[文9,10]であり、一方ラオス人の住民一人あたりの平均年収は 360 US＄[文11]であり、ラオス住民の経済レベルとかけ離れている。

注３）和田ら[文12]は日本の金沢市の伝統的建造物保存地区を対象にアンケート調査実施し、地区指定により、観光客が増え街並みが良くなるものの、規制強化に対する住民の不満や高齢化など将来に対する懸念が解消されていないことなどを明らかにしている。

注４）筆者らは 2004.1.28-2.4 にラオス国立大学及びルアンプラバン県情報文化局と共同で当該地区にある村のリーダーを集めて、CG アニメーションを用いて伝統的町並み保存のためのワークショップを開催した結果、参加者からは CG アニメーションや写真などを用いた説明内容について「理解しやすい」「よく理解できた」という意見が多く、ルアンプラバンの保存規制に対しても「有用である」との回答を得た。

参考文献

文 1) La Maison du Patrimoine “REGLEMENT、Ville du patrimoine mondial de L’UNESCO、Plan de sauvegarde et mise en valeur、 Luang Prabang ”、2001.4

文 2) CONVENTION CONCERNING THE PROTECTION OF THE WORLD CULTURAL AND NATURAL HERITAGE 30th Anniversary(1972-2002) WORLD HERITAGE COMMITTEE Twenty-sixth session Budapest,Hungary ,2002.6.24-29 State of conservation of properties inscribed on the World Heritage list

文 3) SITTHIVAN SOMCHITH,河本順子,阿部浩和、吉田勝行“ラオス・ルアンプラバーン市歴史的遺産保存地域における保存の規制と違反建物に関する研究”日本建築学会,2003 年度大会（東海）学術講演梗概集, pp.145－146,2003,9

文 4) SITTHIVAN SOMCHITH, 河本 順子, 阿部 浩和“ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における PSMV の現状と課題”日本建築学会近畿支部研究報告集, 第 44 号・計画系, pp.821－824,2004、6

文 5) SITTHIVAN SOMCHITH, 河本 順子, 阿部 浩和“ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における PSMV の現状と課題”, 日本建築学会計画系論文集,119－124,2005 年 5 月

文 6) 河本順子, SITTHIVAN SOMCHITH,吉田勝行, “ラオス中部における農山村住宅の形態と住宅に関する住民意識”, 日本建築学会,2003 年度大会（東海）学術講演梗概集, pp.515－516,2003,9

文 7) 河本順子, SITTHIVAN SOMCHITH,吉田勝行, “ラオス中部における農山村住宅の形態変遷”, 日本建築学会計画系論文集, Mar. 2004.

文 8) 内海佐和子他３名、観光化に伴う町並み変容と条例によるコントルール。ヴェトナム・ホイアンの町並み保存に関する研究 その１ 日本建築学会計画系論文集 第 525 号、105-111、1999.11

文 9) Culture Heritage Management And Tourism: Models for Co-operation among Stakeholders, A Case Study on Luang Prabang Lao PDR,2000.4

文 10) La Maison du Patrimoine,Premiere Phase Du Pass-LP, Lot No.08,intitule” Restauration de Batimentl”:Tranche No.01, intitulee” RST-26” 2003.

文 11) The World Bank Group Data and statistics Total GDP 2003 http://www.worldbank.org/data/databytopic/GDP.pdf

文 12) 和田章仁,益岡了, “町並み保全に関する地域住民の意識変化”, 日本建築学会,2003 年度大会（東海）学術講演梗概集, pp. 231－232,2003,9

(2005年５月９日原稿受理, 2005年９月６日採用決定)

NII-Electronic Library Service